

1 HCV 抗体検査(EIA 法)において非特異反  
2 応を示した一症例

3  
4 ○長井俊道 田島秀昭 大嶋秀元 樋口祐子 大貫經一  
5 (国立国際医療センター国府台病院)

6  
7 【はじめに】C 型肝炎ウイルス(HCV)抗体の検出は、  
8 HCV 感染スクリーニングに用いられ、C 型肝炎診断の  
9 補助、輸血後肝炎の予防等に有用とされている。  
10 今回我々は、EIA 法による HCV 抗体検査において非  
11 特異反応を示した症例を経験したので報告する。

12 【症例】70 歳代女性

13 既往歴：膀胱癌

14 家族歴：夫、HCV キャリア

15 現病歴：膀胱癌再発にて手術のため入院。

16 【経過】当院の検査法(EIA 法)で 22.5C.0.I(+)  
17 別法(イムノクロマト法)で検査を行った結果(-)。  
18 判定が異なった為、外注検査にて PCR 法を実施した。  
19 一年前まで EIA 法で結果が(-)であったため、非  
20 特異反応の可能性も考えられたので、併せて PA 法  
21 (粒子凝集法)、イムノプロット法も実施した。

22 【結果】PCR 法(-)、PA 法(-)、イムノプロット  
23 法では c33c バンドのみに強い反応が見られた。

24 【考察】追加試験の結果、PCR 法で(-)であった  
25 ため、初期感染の可能性は否定された。しかし、イ  
26 ムノプロット法で c33c バンドのみに強い反応が見  
27 られ、他の検査法と判定結果に解離が見られたこと  
28 から、c33c 抗原領域に対する HCV 以外のウイルス等  
29 によって産生された抗体が、リコンビナント HCV 抗原  
30 の抗原決定基に反応したと考えられた。

31 【まとめ】EIA 法のみでの検査では偽陽性となること  
32 があり、注意が必要である。c33c 抗原領域に対して  
33 交叉反応が見られた症例はこれまでに 1 例の報告が  
34 あり、稀な症例と考えられた。